

この夏の、各方面での八幡中生の活動を紹介します 1

美術部 芸術鑑賞会 7月18日(金)

本校は、部活動を奨励しています。特に夏休みは、時間的な制約も少ないため、練習試合や施設見学など、学期中よりも多様な活動が可能な期間です。そこで、本校の部活動がこの夏休みに行った活動を紹介します。

7月18日(金)終業式を終えた午後、美術部は、上野にある国立西洋美術館で開催されている「スウェーデン国立美術館 素描コレクション展」に行ってきました。以下、参加した部員の感想を紹介します。



- ・ ジョヴァンニ・ダ・ウーディネの「空飛ぶ雀」という作品が、水彩でざっくりと描かれているのに、素描に色が乗ることにより、雀が飛んでいるとわかるところに惹かれました。【1年 落合 希さん】
- ・ 西洋美術館の常設展にある「ヴィーナスによって天井に導かれるヴェットール・ピサーニ監督」(ジョバンニ・バティスタ・ティエポロ作)の影の描き方が印象派の人達とは違い、少しアニメに似た描き方だと思った。油彩画でこんな繊細な描き方ができるのか！と驚いた。【2年 北原 桜さん】
- ・ 特に印象に残ったのは、鉛筆や木炭で描かれた人物の表情です。わずかな線で感情を表現していて、見ているうちにその人物の背景や心の動きを想像していました。また同じモチーフでも描き手によって全く違う表情になっているのが興味深く、見ていてとても楽しい作品ばかりでした。
 その中でも印象に残った作品は、藤田嗣治の女性像の素描です。やわらかな線で描かれた女性の顔には、淡い感情が宿っているように見えました。
 完成した絵だけを見るのではなく、その作品を仕上げるための素描にもこんなに大切な意味や作者の意図が感じられ、とてもおもしろかったです。【3年 風間 華さん】

作者の手の跡が直接的に感じられる作品を鑑賞しながら、絵画や彫刻などの下絵としての役割以上の、それ自体が持つ芸術作品として魅力を感じているようでした。日頃は学校を離れての活動は難しいなか、夏休みだからこそできる充実した時間を過ごすことができました。



スウェーデン国立美術館 素描コレクション展

スウェーデンの首都ストックホルムにある同美術館は、ヨーロッパで最も古い美術館のうちのひとつで、なかでもその素描コレクションは、世界規模でみても質、量ともに充実したものとして知られています。素描は環境の変化や光、振動の影響を受けやすいため、通常は国外で公開することが難しいなか、今回は約80点もまとまって初めて来日する貴重な機会です。デューラーやルーベンス、レンブラントら巨匠の作品をはじめ、芸術家の技量と構想力が注ぎ込まれている素描の魅力をも堪能できる展覧会です。